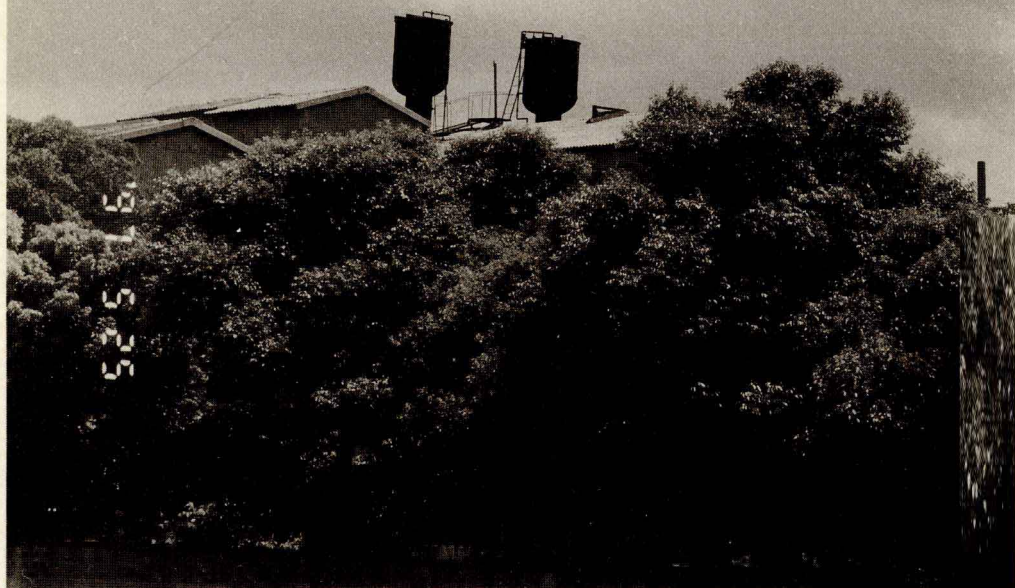


鳩ヶ谷市民短歌会叢書

キューポラの下にて

岡 田 博



鳩ヶ谷市民短歌会叢書

「歌集」

キユ

江蘇工業学院图书馆
蔵書章

の下にて

岡田

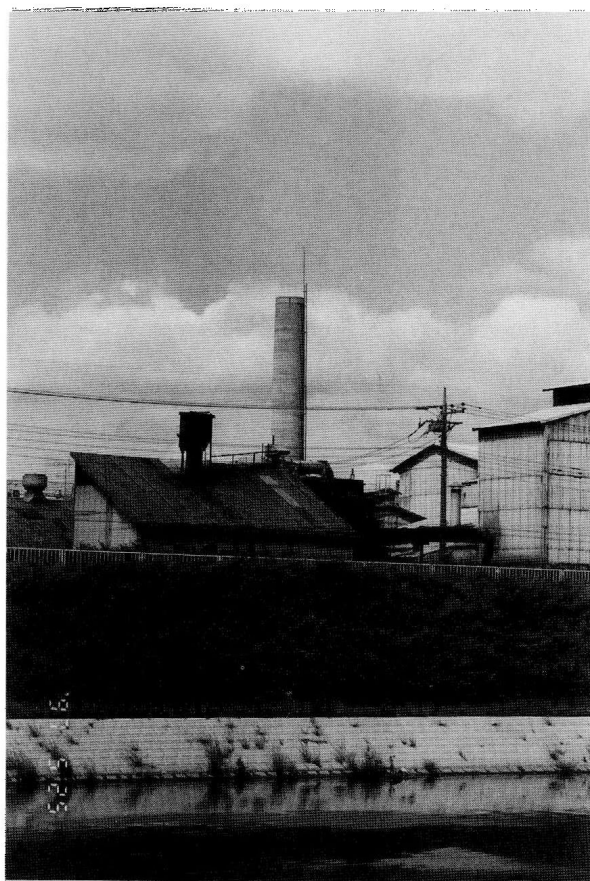
博

鳩ヶ谷市市民短歌会叢書 第8集

歌集 キューポラの下にて

発行	1997年8月15日
住所	鳩ヶ谷市南1-5-5
電話	048-281-4118
製作	(有)カトウ高速印刷
頒価	1,000円(税共)

鳩ヶ谷市南三丁目
 右 石山軽金属アルミ精錬工場
 左 野口三立鋳工所



鳩ヶ谷市は周囲の90パーセントは川口市に囲まれている。

市の中央を流れる運河新芝川河畔に工業専用地域があり、鋳物工場、アルミニウム精錬工場がある。

新芝川の堤上はサイクリングロードになっていて、県民のよき遊歩道である。

川口市領家五丁目 大泉工場



創業者は元川口市長、元衆議院議員 大泉寛三氏
伝導器関係鋳物のメーカーとして知られた。

川口市領家四丁目 池田鋳物



現在川口で複数のキュウポラを写せるところは珍しい。

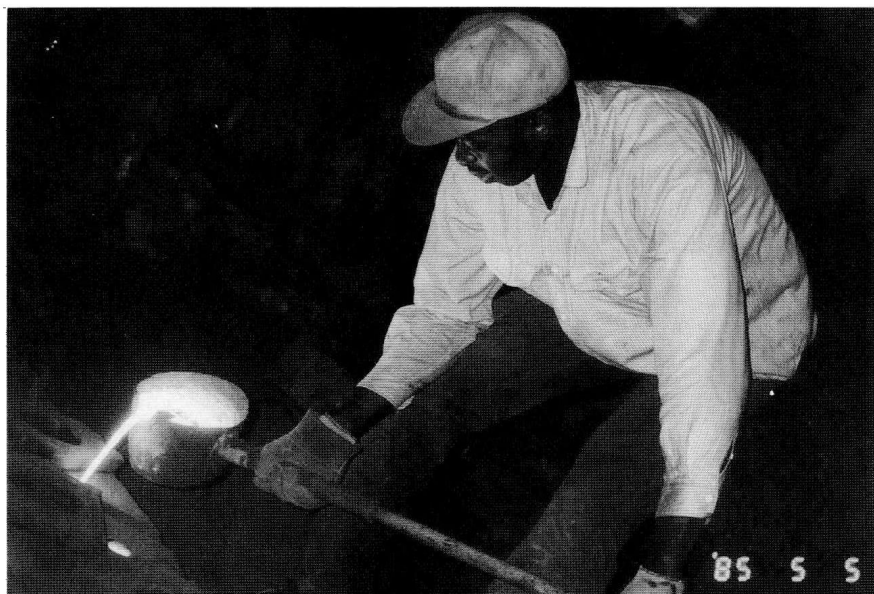
川口市元郷二丁目 野尻鋳工所



後はエルザタワー 55 現在工事中である。



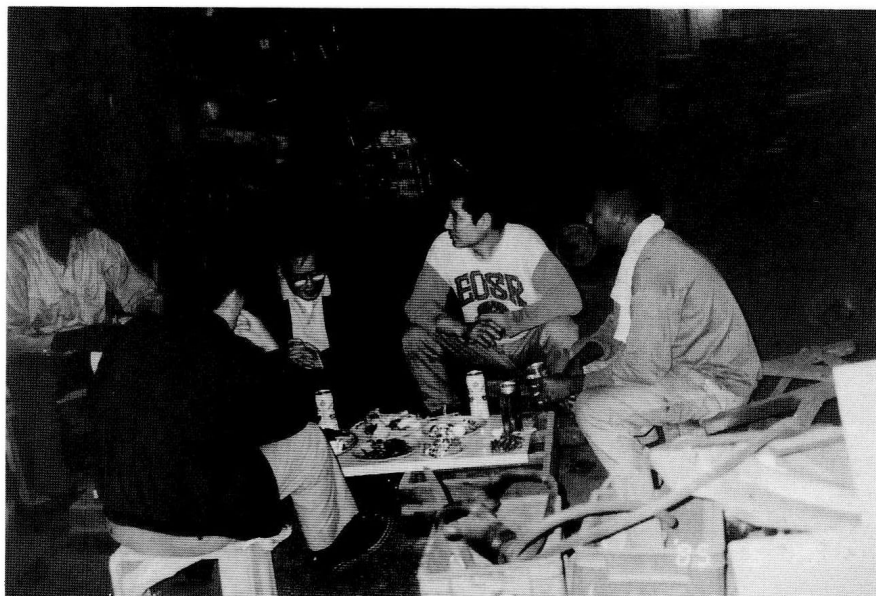
松の生木を差し込んで湯を止める、失敗はゆるされない。木は湯鉄に接すると炭化して、酸素がなければ燃えない。



4貫（15kg）の湯汲みを皆張子のように持ちはこぶ
湯温は 1,600℃以上、顔はほてる。コンゴから来たアブライ君

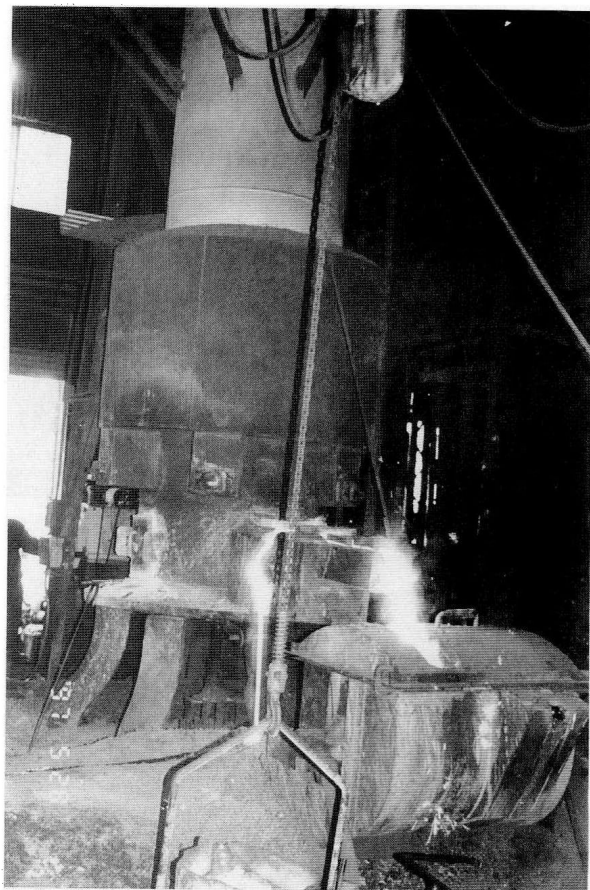


溶解士（たきや）は技術をマスターした ギアナ人ジャロ君

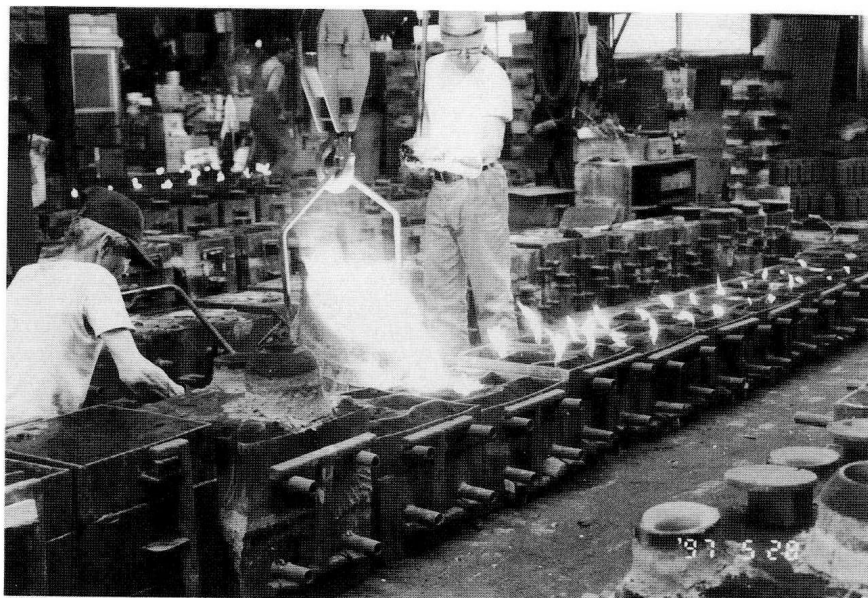


廃業「吹つ止め」の日最後の晚餐である。

川口市青木四丁目 中野工業(有)



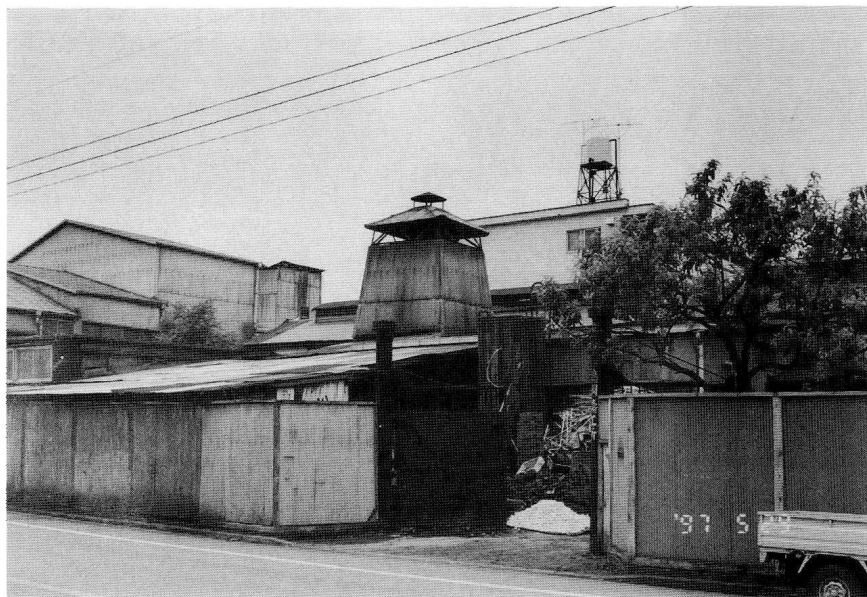
溶解作業中のキューポラ。上の円筒が屋根の上まで伸びている。手前が湯受けの転炉白く光るのが溶解された湯鉄。左横に垂れて落ちているのがノコ。



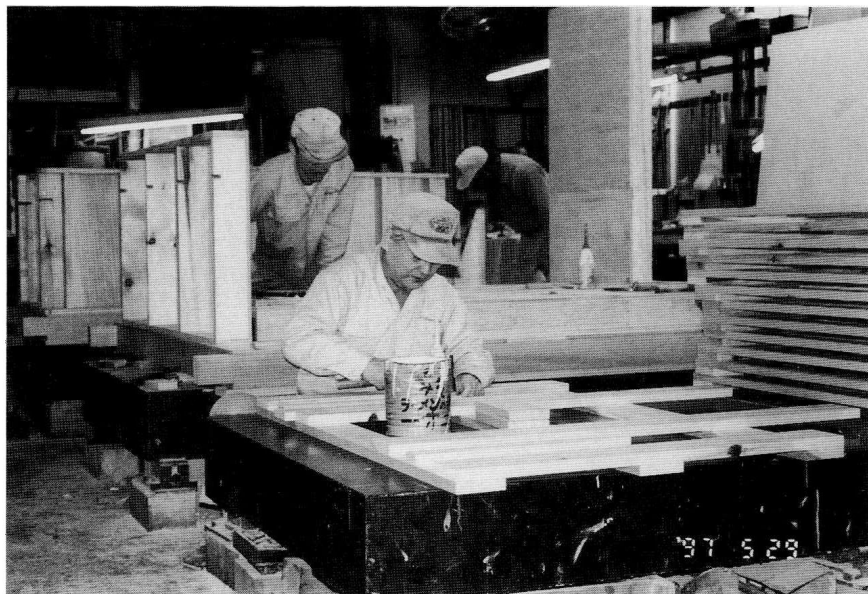
注湯作業が続けられている。 ガスに火がついている。



製品の仕上げは2台のショットで行う。 ほこりも雑音もない。



30年前の川口では最も多く見られた鋳物工場の風景である
この排気やぐらの下に“コシキ”がある。



1,500 × 3,000 定盤4枚が同じレベルで並んでいる。
大型製品の木型組が始まったところである。



銘文

安政七年庚申正月十七日

従五位下源朝臣土岐下野守朝昌

武川口住

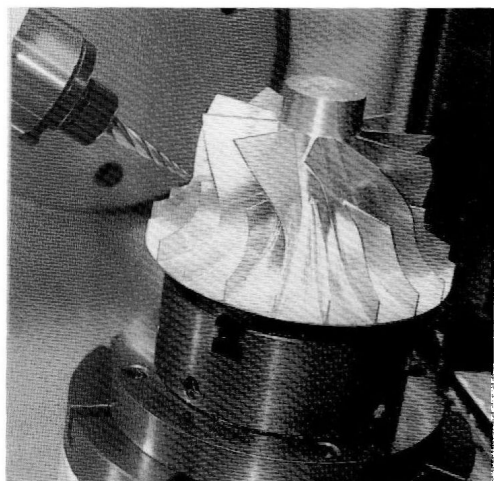
増田金太郎鑄

静岡県久能山東照宮は、1,500 段の石段を上った山頂にある。現在は日本平からロープウェイで気楽に参拝出きるが、昔は参拝そのものが難行であった。その山頂の社前に、武州川口住 増田金太郎鑄の大きな鉄製の天水鉢が設置されている。

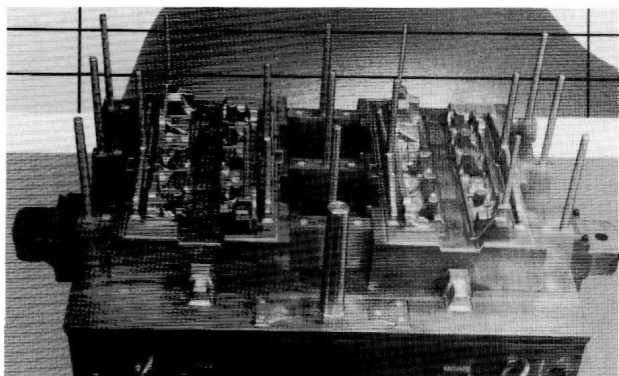


株式会社 田口型範川口工場

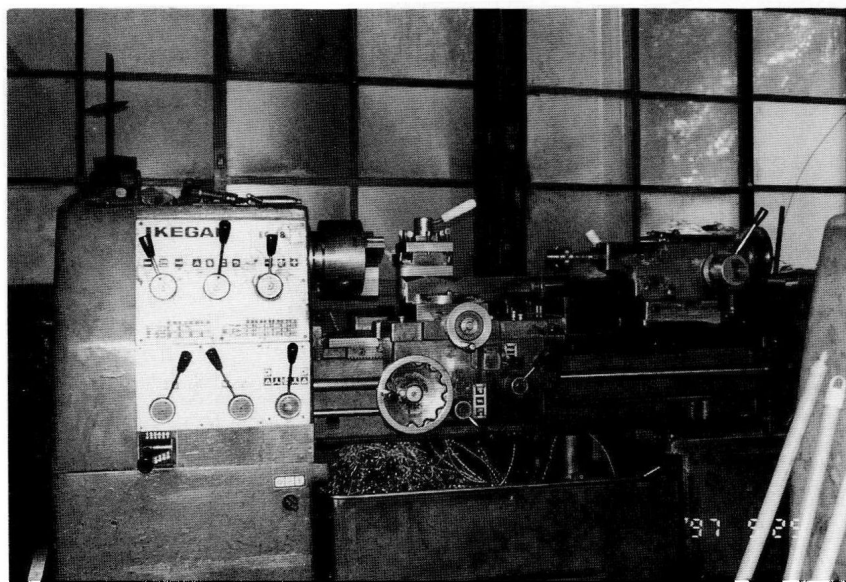
三菱自動車、日産ディーゼル、いすゞ自動車等のエンジン部鋳物金型の多くはこの工場で造られている。



株式会社 田口型範だけが使いこなしているという同時5次元制御フライス盤による人工衛星の噴射ロケット用インペラ加工。羽の肉厚は最先端では0.3mmになる。被加工品の材質は高硬度高粘度アルミニウム。からバナジウムまで完成させている。



コンピューター制御のフライス盤加工と手仕上工の技術と、鑄造体験から編み出された、湯口、押し湯、揚り、ガス抜き、一切が取り付けられている。鑄物工場では制型して、湯銑を注げば完全の品物ができる。



昭和40年に購入のとき「10年使ってから文句を言って下さい」といわれた。池貝鉄工所製では最も廉価なEC18旋盤であるが、我が愛機32年使って来て「新品同様です」と威張っている。

目次

序の歌	1
男の街	3
匂いと臭い	6
屋根の上高く	8
曙影	11
述懐	13
歴史	16
歴史の一 代悲白頭翁	18
歴史の二 駄頭ネオン	21
歴史の三 父病めば	23
歴史の四 鍋と釜	26
歴史の五 ガラの音	28
歴史の六 カジャ・ハツリヤ	31

歴史の七	焚き屋・栓止め	33
歴史の八	よなげ屋	36
歴史の九	買い湯	38
歴史の十	酸素溶接屋	41
歴史の十一	若き技術者	43
歴史の十二	金型工場	46
歴史の十三	師弟	48
機械工場		51
機械工場一	井戸ポンプ	53
機械工場二	戸車挽き	56
機械工場三	いきな旋盤	58
機械工場四	神武景気・岩戸景気	61
自負の末		63
右手・左手		66
屋台酒		68